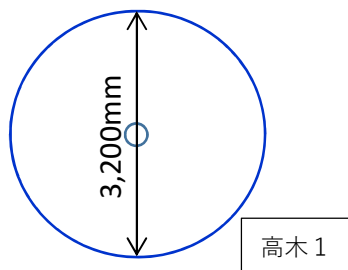


中・高木の図示における留意点

【緑化計画図の中・高木の記載方法】

緑化計画図に図示する中・高木の樹冠は、**みなし樹冠直径**により図示して下さい。

(例) 樹高※ = 3.0mの場合、表よりみなし樹冠直径 = 3.2mの円を図面に明示



樹種区分「高木 1」となり、緑地面積は 1 本当り 8.0m²を計上します。

※植栽時の樹高で判断

(2) 各緑化方法解説

① 高木・中木

- ・使用する樹木の規格により計上できる面積が異なります。
- ・樹冠が重ならない植栽間隔とすることが望ましく、原則として、高木の間隔は 3m 以上あけてください。緑地面積からは、みなし樹冠の重複した面積及び敷地外の面積は控除します。樹冠のみなし直径はそれぞれ以下の通りとします。

■ 高木・中木の計上緑地面積

規格	樹高	計上緑地面積	みなし樹冠直径
中木	1.0m 以上	3.8m ²	2.2m
高木 1	2.5m 以上	8.0m ²	3.2m
高木 2	4.0m 以上	13.8m ²	4.2m
高木 3	5.5m 以上	21.2m ²	5.2m
高木 4	7.0m 以上	30.1m ²	6.2m

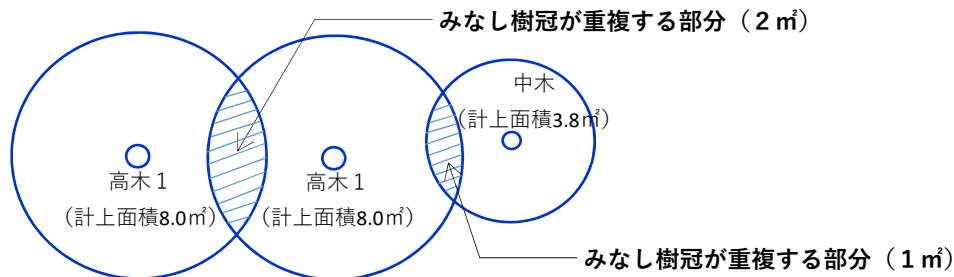
- ・低木及び地被による緑化と重複して計上できません。
- ・法面に植栽する場合は、勾配を 1:3 以下としてください。
- ・竹類(竹、笹)の使用については、次項の「低木」として取り扱います。

神戸らしい緑化ガイドライン P 6 1

中・高木の図示における留意点

【中・高木の緑化面積算定上の留意点】

【ケース1：みなし樹冠同士が重複する場合】

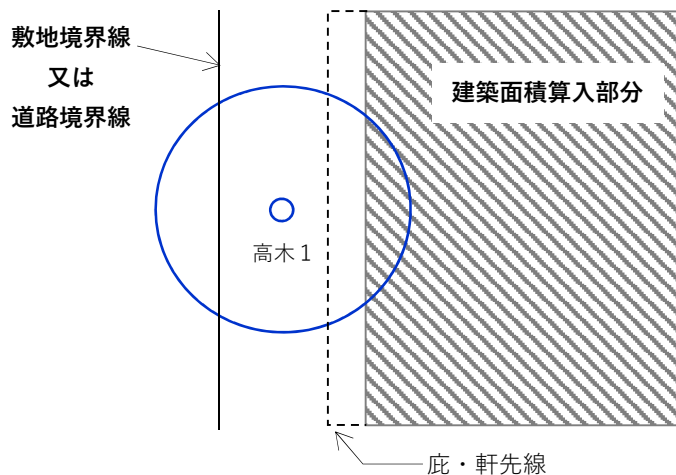


重複部分の面積は、**二重計上できません**。

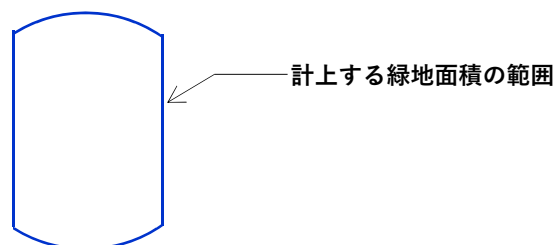
計上する緑地面積 = $8.0\text{㎡} \times 2\text{本} + 3.8\text{㎡} \times 1\text{本} - 2\text{㎡}$ (重複面積) $- 1\text{㎡}$ (重複面積)
 $= 16.8\text{㎡}$ となります。

※面積の算出は、CAD求積も可とします(以下同じ)。

【ケース2：みなし樹冠が敷地外に出る若しくは建築面積算定部分と重複する場合】



計上する緑化面積は、**道路部分、敷地外の部分及び建築面積算入部分を除いた面積**とします。(下図のとおり)



なお、庇・軒先等がある場合、樹幹の位置はの当該**庇・軒先線の外**に植樹して下さい。
 庇・軒先等の下に樹幹がある場合、当該中・高木は**緑地面積に算入できません**。